

2023年2月3日
南海電気鉄道株式会社

当社初のサステナビリティボンドを発行します

南海電気鉄道株式会社（社長：遠北 光彦）は、サステナブルな経営を進めるべく、サステナビリティファイナンス・フレームワークを策定し、サステナビリティボンド（以下、「本社債」）の発行を決定しましたので、お知らせいたします。

当社グループでは、「南海が描く“2050年の企業像”」の実現と「南海グループ経営ビジョン 2027」の達成に向けて、2022年度を初年度とする中期経営計画「共創 140 計画」を推し進めています。同計画では、コロナ禍を経ての「再構築」と「成長への基礎構築」を行うために、「公共交通事業のサステナブルな経営」と「選ばれる沿線づくりと不動産事業深化・拡大」という事業戦略に基づき、公共交通事業への計画的な安全・更新投資のほか、なにわ筋線事業や沿線各所におけるまちづくりをはじめとする戦略投資を確実に実行していきます。

本社債による資金調達を通じ、こうした当社グループのサステナブル経営の取組みをステークホルダーの皆さまに周知するとともに、資金調達面からも推進していきます。

1. 本社債の概要

名称	南海電気鉄道株式会社第51回無担保社債 (社債間限定同順位特約付)(サステナビリティボンド)
発行総額	100億円(予定)
発行年限	5年(予定)
発行時期	2023年3月以降
主幹事証券会社	大和証券株式会社 野村證券株式会社 三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券株式会社
ストラクチャリング・エージェント※	大和証券株式会社

※ストラクチャリング・エージェントとは、サステナビリティファイナンス・フレームワークの策定やセカンドオピニオン等の外部評価の取得に関する助言等を通じて、サステナビリティボンドの発行支援を行う者を指します。

2. サステナビリティファイナンス・フレームワークの策定及び外部評価の取得

本社債の発行にあたり、国際資本市場協会 (ICMA) が定める「グリーンボンド原則 2021」、「ソーシャルボンド原則 2021」及び「サステナビリティボンド・ガイドライン 2021」等の原則等(以下、「原則等」)に基づき、「①調達資金の用途」「②プロジェクトの評価及び選定のプロセス」「③調達資金の管理」「④レポーティング」の4つの要素について記載した、本フレームワークを策定しました。

本フレームワークに関して、株式会社格付投資情報センター(以下、「R&I」)より、原則等に適合している旨のセカンドオピニオンを取得しております。

◆サステナビリティファイナンス・フレームワーク

https://www.nankai.co.jp/lib/company/ir/stock/sustainability-bond/framework_bond01.pdf

◆R&I セカンドオピニオン

https://www.nankai.co.jp/lib/company/ir/stock/sustainability-bond/secondopinion_bond01.pdf

3. 調達資金の用途

本社債の発行による調達資金は、「グリーン適格プロジェクト」である新型車両の導入及びグリーンビルディングの建設、並びに「ソーシャル適格プロジェクト」である沿線地域の社会課題解決に資する再開発に係る新規投資及び既存投資のリファイナンスに充当する予定です。具体的な充当予定のプロジェクトについては、別紙をご参照ください。

当社グループは、本社債発行後も、SDGs の目標達成のための取組みをより一層強化し、当社グループの企業価値向上・沿線価値の向上・地域住民をはじめとするステークホルダーの幸福度の向上を目指していきます。

以 上

【別紙】 充当予定のプロジェクト一覧

<グリーン適格プロジェクト>

◆新型通勤車両8300系(6000系等代替)、9300系(泉北高速鉄道3000系代替)導入

事業区分
クリーン輸送、エネルギー効率
プロジェクトの背景・概要
<p>車両の新造・改良を行い、より安心・快適に利用いただける環境づくりに努めています。南海線・高野線を運行する8300系は、従来車両(6000系等)と比較して消費電力が約半分に抑制でき、車内外への騒音を低減する等、人と環境に優しい省エネ車両となっています。また、泉北高速線では、2023年夏頃に新型通勤車両9300系の導入を予定しており、消費電力は従来車両(3000系)と比較して約半分となります。</p> <p>なお、8300系及び9300系は、4か国語に対応した車内案内表示器を設置するなど、環境に優しく、すべての人が安全で快適に使いやすい車両となっています。</p>
車両外観
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"><div style="text-align: center;"><p>8300系</p></div><div style="text-align: center;"><p>9300系イメージ</p></div></div>

◆北大阪トラックターミナル1号棟、大阪府食品流通センターE棟

事業区分	
グリーンビルディング、エネルギー効率	
プロジェクトの背景・概要	
<p>北大阪流通センターを関西圏における一大物流拠点とすべく、物流施設の高度化に取り組んでいます。その起点として、2020年4月に北大阪トラックターミナル1号棟が竣工しました。当該建物は、環境性能やテナント利便性、オーナーや物件関係者の取組み等を評価する DBJ Green Building 認証にて、4つ星を取得しました。また、2021年度には隣接する大阪府食品流通センターE棟の建設工事に着工し、2023年3月の竣工を目指しています。当該建物の開発計画について、DBJ Green Building 認証のプラン認証として3つ星を取得しています。</p> <p>今後も、社会基盤を支える物流拠点の機能強化を図っていきます。</p>	
北大阪トラックターミナル1号棟 概要	
◆所在地	大阪府茨木市宮島二丁目
◆竣工	2020年4月
◆延床面積	約49,980㎡
◆構造	地上4階建
◆環境対応	LED照明、外壁サンドイッチパネル
◆環境性能	DBJ Green Building 認証 4つ星
	
大阪府食品流通センターE棟 概要	
◆所在地	大阪府茨木市宮島一丁目
◆着工	2021年11月
◆竣工予定	2023年3月
◆延床面積	約50,000㎡
◆構造	地上4階建(事務所部7階建)
◆環境対応	屋上太陽光発電設備、LED照明、 外壁サンドイッチパネル
◆環境性能	DBJ Green Building 認証(プラン認証) 3つ星
	

<ソーシャル適格プロジェクト>

◆泉北ニュータウン「泉ヶ丘駅前活性化計画」

事業区分	
雇用創出、社会経済的向上とエンパワーメント(地方創生・地域活性化) 【対象となる人々:地域住民(移住者を含む)】	
プロジェクトの背景・概要	
<p>泉北ニュータウンは高度経済成長期の住宅需要に応えるため、1967年の“まちびらき”を皮切りに発展し、1992年には人口16.5万人を誇った関西を代表する大規模ニュータウンです。しかし、“まちびらき”から50年余りを経て、人口減少・高齢化と若年世代のエリア外転出、建物老朽化等、社会課題が顕在化しています。</p> <p>一方で、近畿大学医学部及び近畿大学病院の泉ヶ丘エリアへの移転(予定)、働き方の変化による郊外生活の見直し、UR 建替事業による新たな住民の流入、大阪府・堺市スマートシティの重点エリアへの選定等、泉北ニュータウン・泉ヶ丘に明るい要素が出てきています。</p> <p>当社としても、これらの動きに呼応し、2023年1月から AI オンデマンドバス「NANKAI オンデマンドバス」の実証実験といったスマートシティに関する取組みを推し進めるなど、泉北ニュータウンの活性化に尽力するとともに、泉ヶ丘エリアでは、次代の沿線中核都市を目指し、自治体等と共創で「泉ヶ丘駅前活性化計画」を推進しています。</p> <p>具体的には、泉ヶ丘駅前施設を商業・金融サービス、オフィス、医療などの複合用途に刷新、“PARK(広場)が主役”の環境空間と、ユニバーサルデザインに配慮した歩行者ネットワーク等を創ります。本計画によって、エリアに新たな価値を創造することで、ニュータウン再生のパイロットモデルとして、サステナブルで魅力ある街とすることを目指しています。</p>	
泉ヶ丘駅前活性化計画 概要	
◆建物規模	地上4階、地下1階
◆施設用途	商業・金融サービス、オフィス、 医療施設、広場機能 等
◆延床面積	約16,000㎡
◆竣工予定	2025年9月(10月開業予定)
◆工事着手	2022年4月から順次



◆キーノ和歌山

事業区分	
社会経済的向上とエンパワーメント(地方創生・地域活性化) 【対象となる人々:地域企業・住民】	
プロジェクトの背景・概要	
<p>南海本線の南端である和歌山市駅において、和歌山市と共同で「和歌山市駅活性化計画」を市街地再開発事業として推進しました。キーノ和歌山は当該再開発計画に伴い建設されたオフィスゾーン、商業ゾーン、ホテル、和歌山市民図書館等で構成される複合施設で、2020年6月にグランドオープンしました。</p> <p>地域食材を扱う和歌山県内のサプライヤーによる産直売場の提供や天井・通路での紀州材使用など施設全体で和歌山らしさを感じることができ、医療施設等を含む多様な都市機能を充実させ、交流人口の増加とにぎわいの創出により、和歌山市駅周辺地域の活性化や魅力向上に貢献しています。</p>	
キーノ和歌山 概要	
◆施設構成	オフィス、商業ゾーン、ホテル、 公益施設(和歌山市民図書館)等
◆延床面積	・オフィス棟 約6,200㎡ ・商業棟 約8,600㎡ ・ホテル棟 約6,000㎡ ・和歌山市民図書館 約9,600㎡
	